

TOPIC

学生ボランティアサークル「Tomorrow」が 医療体験セミナーを開催

令和5年5月27日(土)に、福島駅前キャンパスにて学生ボランティアサークル「Tomorrow」は、福島市内の小学3年生から6年生40組を対象にした第2回医療体験セミナーを開催いたしました。

理学療法学科・作業療法学科・診療放射線科学科・臨床検査学科それぞれの取組みに関する体験機会を提供しました。

医療現場で使用される機器を使って 楽しみながら体験へ

車椅子の乗車体験では、天井にぶら下げられたお菓子を掴み取る為に、知らず知らずのうちに楽しみながら操作性を学び、夢中でピペットを握りしめた手の握力に疲れ、様々な自助具を手にはしては悩みと、笑い声が絶えない体験となりました。

なかでも、MRI室に入る前に使用した金属探知機や放射線測定器は、まるで高価なおもちゃさながらの取り合いになり、MRI装置内でアルミ缶が重たく感じた時とCT撮影した画像を再構築した骨格の3D画像がモニターに映し出された時の驚きはひとときでした。

特筆すべきは、すべて学生が説明し体験をサポートしていることで、こどもたちが大人に見せる緊張はどこふく風で、普段と変わらないリラックスした表情で楽しんで体験していたことです。学生の皆さんにとっても、こどもたちとのコミュニケーションは、専門医療技術者を目指すうえで、貴重な経験になったのではないのでしょうか。

同サークル代表の診療放射線科学科3年生岩崎美怜さんは、「医師や看護師の他にも医療を支えている人がいることを知ってもらいたい」と話し、サークル顧問の診療放射線科学科五月女康作准教授は、「前回



よりブラッシュアップされたが、今後回を重ねて、さらに完成度を高めて欲しい」と期待を込めました。

TOPIC

看護学部「ホームカミングディ」を開催しました

令和5年5月13日(土)に、今年3月に看護学部を卒業した22期生を対象とした「ホームカミングディ」を開催しました。このホームカミングディは就職してからの悩みや不安等を仲間や教員と共有し、エネルギー補充の場となることを目的に毎年開催しています。

今年は会場の8号館3階の学生ラウンジに卒業生11名、教員8名、同窓会長が集まり、さらに1名の卒業生がオンラインで参加しました。参加者がお互いの近況報告や歓談で楽しい

時間を過ごし「リフレッシュになって良かった」などの感想が聞かれました。



参加者の集合写真



歓談の様子





SPECIAL TOPIC

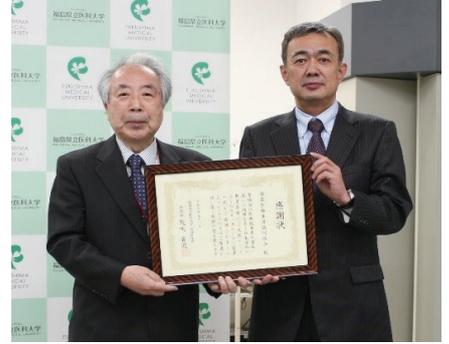
ホールボディカウンター寄贈に関する 感謝状贈呈式を挙行了ました

令和5年3月7日(火)に本学保健科学部は、福島医療生活協同組合様より放射線の内部被ばく量を測定するホールボディカウンター装置一式を寄贈いただきました。本寄贈は、保健科学部の教育支援のため行われたものです。

そこで、令和5年5月2日(火)に、ご寄贈に感謝の意を表するため、保健科学部において感謝状贈呈式を福島医療生活協同組合理事長の齋藤紀様、医療生協わたり病院放射線科科長の大橋学様のご臨席のもと挙行了ました。

贈呈式では、矢吹省司保健科学部長が「学生はより実践的に福島を学ぶことが可能となり、大変有難く、大切に活用させていただく。福島医療生活協同組合齋藤紀理事長様はじめ、組合の皆様にも、重ねて心から御礼を申し上げます。」と感謝の言葉を述べ、感謝状を手渡しました。

齋藤紀理事長様からは「福島のこれからの医療を担う学生の、学習材料として使用されることは、非常に有効な活用方法であり、大変喜ばしく思っています。」と挨拶をいただきました。



今後も保健科学部では、福島県の地域医療や災害医療を理解し、それらへの取組を能動的に行える専門医療技術者を育成してまいります。そして、医療人材を育成する総合大学の一翼を担い、福島県の医療体制充実に貢献してまいります。



TOPIC

福島県立医科大学志らぎく会総会及び学生との懇談会を4年ぶりに開催しました

福島県立医科大学志らぎく会は、令和5年5月29日(月)に本学講堂にて4年ぶりとなる



第43回総会と医学部学生との懇談会を開催しました。

本学の献体登録者団体である志らぎく会は「献体(自分が亡くなった後、自分の遺体を解剖学の教育と研究のために医科大学へ無条件・無報酬で提供する)は誰にでもできる大いなる遺業」をモットーに昭和55年に発足して以来、医学の進歩と発展のため多くの会員の皆様の尊い志で、本学の教育に多大な貢献をされて来られました。

総会では、神経解剖・発生学講座の八木沼

洋行教授が「献体が支える福島県の医学医療教育」と題して講話を行い、教育及び研究活動への献体の必要性を説明しました。

また、総会に先立ち、志らぎく会会員と実際に解剖実習を行っている医学部学生との懇談会が開催され、会員の方それぞれが抱えた献体に込める思いを直接伺えました。

様々な人々に支えられ導かれ、医師としての道を歩む中で、白菊の花言葉にある「真実」「誠実な心」を学生自身の心に刻むことができたのではないのでしょうか。



GEX e-NEWS

国立シンガポール大学医学部留学生交流会を開催しました

令和5年5月18日(木)に本学11号館第2臨床講義室にて、国立シンガポール大学医学部留学生交流会を開催しました。

学術交流協定(MOU)に基づく事業の一環として開催

本学と国立シンガポール大学が締結している学術交流協定(MOU)に基づく事業の一環として開催されたもので、交流会では、本学医学部4年生の長谷川玲奈さん、見城花菜子さん、国立シンガポール大学医学部3年生のCHUA Shi Minさんが発表を行いました。

長谷川さんと見城さんは、令和5年4月15日(土)から5月12日(金)まで国立シンガポール大学に留学し、シンガポールにおける臨床の現場を学びました。CHUAさんは、令和5年5月15日(月)から5月25日(木)まで本学に留学しました。

見城さんは「Report on the program in NUS」と題し、国立シンガポール大学での留学生活や体験、得られた学びなどを発表しました。

また、長谷川さんは「Working as a Female Doctor」と題し、女性医師として働くことをテーマに日本とシンガポールの女性医師についてデータを用いながら比較検討を行いました。

CHUAさんは「Life in NUS Yong Loo Medicine」というタイトルで、動画を交えながら国立シンガポール大学での留学生生活を紹介しました。

当日の進行、発表及び質疑応答は全て英語で行われ、参加した学生や教員からは多くの質問があり、それぞれの留学先での活動について活発な意見交換の場となりました。



交流会参加者の集合写真



見城花菜子さん



長谷川玲奈さん



CHUA Shi Minさん